

厚生労働科学研究費補助金（障害者政策総合研究事業）  
分担研究報告書

アルコール依存症の治療・支援にかかわる教育研修プログラムを支える  
LMS（Learning Management System）の構築に関する研究

研究分担者 堀場 文彰

**研究要旨**

アルコール依存症の治療者育成に向け、オンライン研修に対応しかつ臨床現場で即戦力となり得る人材を養成できる実践的な医療研修プログラムの構築を第一の目標とし、アルコール依存症の治療援助者を養成するプログラムの作成を試みた。研修を支える基盤システムの構築に取り組み、学修管理システム(Learning Management system)を選定し、導入・構築までを立案した。

**A. 研究目的**

近年、ネットワークを通して会議を行うことが日常となってきた。研修についても Web 会議システムを利用しオンラインで行われるようになったが、ほとんど全てが対面で行っていた研修内容をそのまま実施したものである。オンラインを前提としてプログラムの組立てを行った例はほとんどない。

近年、アルコール依存症に対する社会的関心は高まってきており、平成 28 年には厚生労働省より「アルコール健康障害対策推進基本計画」が発表され現在は第二期（令和 3 年度～令和 7 年度）が進行中である。アルコール依存症では多様な背景を持つ患者に対して多角的な治療戦略、支援体制を構築する必要性があり、柔軟な対応が求められている。治療者は専門的知識に加え、課題を解決するための考え方や治療者・患者双方の感情に配慮すること等を実践的に学修

する必要がある。

本研究班の全体目的は、オンライン研修に対応可能かつ臨床現場で即戦力となり得る医療従事者を養成できる実践的な医療研修プログラムを構築することである。モデルとしてアルコール依存症の医療研修プログラムを開発する。研修を支える学修管理システム(Learning Management system, 以下 LMS)の構築を行った。

**B. 研究方法**

LMS の構築にあたり、重視したのは次の点である。(1) 受講生が無理なく受講できるよう配慮されること。(2) 受講時間（専門的知識：10 時間、演習：6 時間）の管理ができること。(3) LMS からオンライン会議システムへの案内・移動が無理なく行うことができること。(4) 受講修了者には修了証を発行すること。また、システムはパブリッククラウド上に構成し、受講者（利用者）は

インターネットを経由してアクセスする。セキュリティには十分な配慮が必要である。以上を踏まえて LMS 機能概要書を作成し、基盤システムを構築した。

#### (倫理面への配慮)

本研究は、さいがた医療センター倫理委員会にて承認を得た。

研究対象者には、研究の目的と方法、研究への参加は自由であり、参加しなかった場合でも不利益がないことを説明した。データ入力・分析をする際、個人が特定できないようにナンバリング処理(匿名化)し、データはパスワードでアクセス制限を行った。

### C. 研究結果

作成した LMS 機能概要書の内容は以下の通りである。

- |                 |
|-----------------|
| 1. 研究概要         |
| 2. 用語           |
| 3. 受講の流れ        |
| 4. ネットワーク構成     |
| 5. サーバ基本機能      |
| 6. LMS 基本構成     |
| 7. 機能要件         |
| [管理・基本]         |
| [講習管理]          |
| [コース管理] 管理者・受講生 |
| [単元管理] 講師       |
| [単元受講] 受講生      |
| [成績管理] 講師・管理者   |
| [ポートフォリオ] 受講生   |

LMS 機能概要書を 4 社の LMS 提供会社に送ったところ、3 社から提案を受けた。そのうち、前述の(1)～(4)の重点事項を全て満たす 1 社を選定した。

### D. 考察

アルコール依存症にかかわる教育研修プログラムは、知識の習得のみならず「アルコール依存症にかかわる医療者に必要な資質」や「困難事例への対応法」なども身に付けなければならない。その研修を下支えする LMS もそれらに柔軟に対応する必要がある。

LMS の使い勝手の善し悪しは受講者の満足度だけではなく、学修効果にも影響するものとする。適切にシステムを構築していきたい。

### E. 結論

オンライン研修に対応可能かつ臨床現場で即戦力となり得る医療従事者を養成できる実践的な医療研修プログラムを構築するという当研究班の目的のため、基盤となる LSM を選定しシステム構築を行った。今後はこのシステムを利活用し、研修プログラムを組立てていく。

### G. 研究発表

#### 1. 論文発表

なし。

#### 2. 学会発表

佐久間寛之、斎藤利和、大槻眞嗣、杉浦真由美、堀場文彰、稲熊容子、太田充彦、村山裕子、阿部かおり、大越拓郎「アルコール依存症研修に対するニーズおよび依存症医療者に必要な資質に関するエキスパート調査」第 34 回九州アルコール関連問題学会 2023. 3. 24 (福岡)

### H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

#### 1. 特許取得

なし

**2. 実用新案登録**

なし

**3. その他**

なし